

## C-15 現時の家族生活における共同的側面の研究 (第4報)

山口大 益井タツエ

1. 前回までにおいて、山口県下の近代産業都市ならびにその周辺に生活する俸給生活者、小売業者、農業者および瀬戸内海の離島に生活する漁家の生活実態を調査し、その家族生活の共同的場面の把握を試みた。今回はこれと比較研究のため、山村における農家生活の調査を行なった。

2. 山口県下山陰部山村の農家30戸を選び、前3回と同様の方法を適用した。

3. 近代産業都市周辺における農家家族が、兼業という形において崩壊の方向を示すのにたいし、山村奥地における農家家族が、世帯主の長期出稼という形における崩壊の傾向を示すことは、ここにおいてもまた例外でない。したがって、当然に主婦の農作業の過重、作業時間の過長となる。これを家族の生活共同、殊に母と子について考察するとき、都会における職業をもつ母親と子の問題に共通するものも見られる。併し、これと異なる特徴として、前回の祝島において、また当調査において、自然的環境に育成される子供の生活を見るとき、自然的存在としての人間および家庭の意義を改めて認識せざるを得ない。生産労働に従事する主婦の、その家族との共同生活場面の問題解決の途を、このような観点をも加えて多角的に探ってゆきたい。